

1. 調査報告概要表

作成日平成20年 2月10日

【評価実施概要】

事業所番号	0193600079		
法人名	有限会社 ほのぼの月寒		
事業所名	グループホームほのぼの音羽		
所在地 (電話番号)	北海道苫小牧市音羽町2丁目10-1 (電話)0144-38-7200		
評価機関名	特定非営利活動法人 アイケア・ネット		
所在地	札幌市中央区南2条東1丁目1番地12		
訪問調査日	平成19年12月 9日		

【情報提供票より】(平成19年12月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成18年 7月10日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	16人, 非常勤 1人, 常勤換算 10.6人

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造 造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(家賃の2ヶ月分)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 450 円
	夕食	500 円	おやつ 50 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	7 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83.4 歳	最低	60 歳	最高	98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人同樹会苫小牧病院、松井デンタルクリニック
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街に新設されたグループホームで、概観は近隣住宅に違和感なく溶け込んでいる。屋内はバリアフリーとなっており、車イス等でも安心した生活が送れるよう設計されている。居間は明るく過ごしやすい空間となっており、利用者も居間で過ごすことが多いため、利用者同士の関係が築かれている。管理者と職員は、グループホームの名前のように、利用者が「ほのぼの」とした雰囲気の中で生活が送れるよう日々の取り組みがなされている。今後は、近隣住民との交流を盛んにし、地域の情報発信源としての役割を担っていくことが望まれる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	開設以来初めての外部評価である。今回、管理者と職員全員で自己評価の作成に取り組み、評価の意義を理解し改善に向けて取り組む姿勢が伺える。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に管理者と職員全員で取り組むことにより、現状を把握することができ、今後の改善が必要な事項に対する気づきを得ることができている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は開催されていないが、参加者の選任や依頼を行っており、開催への準備が進められている。早期に日程調整を行い、運営推進会議を開催することで、グループホームのサービスの質の向上に繋げると共に、地域住民のグループホームへの理解を深める役割を担うことが望まれる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情の受付窓口を明らかにし、意見箱を設置し利用者や家族からの意見や要望を受け付けている。家族への利用者の近況報告は面会時や必要に応じて行われていたが、毎月定期的に近況報告とお小遣帳の送付を行うことに改善している。今後は、ホームで発行する新聞や運営推進会議を利用して、苦情や意見等への対応状況を報告していく機会の創出が求められる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣幼稚園との交流を始めたところである。より地域に根ざした支援を行っていくためにも、日常的に地域住民と交流をもったり、地域の行事へ参加したり、グループホームの行事や避難訓練などに参加してもらったりするなど、地域住民とより強い連携をもてるよう取り組みがなされることが望まれる。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームの名称にもあるように利用者に「ほのぼの」とした雰囲気の中での生活を提供できるよう運営理念を掲げており、運営理念の実現に向けた取り組みが行われている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内に運営理念は掲示されているが、管理者と職員が日々理念を共有するには至っていない。今回自己評価を行ったことにより再確認は行われている。	○	管理者と職員が運営理念を共有できるよう、日々の朝礼や会議などで再確認する機会をもつことが望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣幼稚園の行事を見学に行くなど交流に努めている。老人会等には開設時に挨拶したのみで交流をもっていなかったが、運営推進会議への参加依頼と共に挨拶をし、今後地域との交流を計画している。	○	地域に根ざしたグループホームにしていくためにも、町内会や老人会に入会するなど、より良い交流が持てるよう努めることが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回初めてサービス評価を受けるため、評価改善には至っていない。自己評価には管理者と職員全員で取り組んでいる。	○	今回の評価を、更なるサービスの向上と意義の理解に繋げて欲しい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長や地域包括支援センターに依頼するなど、運営推進会議開催への準備は進めているが、まだ開催に至っていない。	○	日程調整を早めに行い、定期的な運営推進会議の開催が望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の担当者とは必要に応じて情報交換を行っている。管理者が管理者会議に参加し情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族への報告は面会の際や必要に応じて行っている。毎月、近況報告とお小遣帳を送付するように改善している。	○	家族への情報提供をこまめに行うことと職員間の情報共有をしっかりと、利用者や家族との更なる信頼関係の構築に努めることが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の受付窓口を明らかにしている。意見箱も設置し利用者や家族からの意見や要望などを受け付けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は多少あったが、利用者への影響が抑えられるよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修は採用時のみで継続研修は行われていない。希望する職員が外部研修を受けられるよう体制がとられている。	○	会議や勉強会を利用し、外部研修に参加した職員が得てきた知識を報告し、職員全員で知識の共有が出来るようなしくみ作りへの取り組みが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が連絡会や交流会に参加し、地域のグループホームとの交流に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人や家族にホームを見学してもらうことはもとより、入居担当者が本人や家族の下に何度も顔を出すなど、少しでも早く馴染めるよう工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と共に作業を行い、利用者の意思を尊重し、相互に支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活習慣などを把握し、一人ひとりが個性にあった生活が送れるよう支援している。又、意思表示が困難な利用者も一方的な指示、決定にならないよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の生活の中から、利用者や家族の意見や要望を汲み取っている。医療面の判断が必要な場合は、主治医と連携をとっている。	○	職員全員が積極的に介護計画に係るよう定期的なカンファレンスや、日常の支援状況が介護計画に反映されるよう記録の記入方法にも工夫が望まれる。又、利用者だけでなく家族とも信頼関係の構築に努め、介護計画へ反映されることが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な介護計画の見直しに努めている。利用者の状況が変化した場合はその都度会議を開き見直しを行っている。	○	定期的な介護計画の見直しの実施とともに、日々の支援状況や職員の気づきが介護計画に繋がるよう記録の工夫が望まれる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の状況に応じた支援が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医師との連携がとれており、必要に応じて相談ができる体制がとられている。職員が通院に同行し利用者の状態を確認するなどしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現状では対象者はいないが、状況に応じて利用者や家族の意向を把握するよう努めている。	○	今後はホームとしての方針を決定し、早いうちから利用者や家族、かかりつけ医師等との連携をとり、利用者にとって最善の支援が行われるよう取り組むことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の意思を尊重し、個々の利用者の尊厳を保つ対応を心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースや要望にあわせた支援をするよう努めている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事の際には利用者の希望を取り入れた献立にするなど工夫している。又、調理作業や後片付け等できる作業には参加してもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に沿った入浴支援が行われている。現状では夜間入浴の希望者はいないが、対応できるよう取り組みを始めている。	○	様々な生活状況の利用者に合わせた入浴支援を行うことができるよう体制作りが望まれる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	音楽の得意な利用者に披露してもらおう場を設けたり、散歩や買物に出かける機会を設けたり、出来る範囲での家事をする場面を設けるなど支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日午前と午後に声かけを行い、希望する利用者と散歩をしている。又、日々の買物を利用した散歩等でも外出を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関に鍵はかけていない。状況により短時間のフロア入り口の施錠が行われることがある。	○	利用者の外出パターンへの把握に努め、職員の連携の強化と共に、地域住民の協力も求め、利用者の自由な暮らしの支援が求められる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
丸	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	初回のみで、定期的な非難訓練は行われていない。	○	マニュアル等の整備と共に、消防や地域住民との連携のもと、定期的な非難訓練の開催が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェックシートを利用し、日々の水分量等把握している。利用者の状態に合わせた食事提供等行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は明るく適度に換気が行われ過ごしやすい空間となっている。又、季節に応じた飾り付けを行ったり、テレビの音量や職員の話し声に配慮するなど、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にある家具は入居に際して家族等が用意したものが多く、家族の写真や小物類で好みのもを置くなど、居心地よく過ごせるよう工夫がされている。	○	目の届きにくい部屋の隅など細かいところも定期的に掃除を行うなど、より快適に過ごせるよう支援を行っていくことが望まれる。

※ は、重点項目。